第14回みんゆう新聞感想文コンクール作品紹介

小学3・4年生の部　優秀賞

一石三鳥エコじょ草

三春小3年　壁寸　仁洸

三春町では、動物によるエコじょ草がおこなわれています。それはSDGsにつながるとりくみなのですばらしいと思います。

ぼくは、六月に三春ダム近くにいる、ヤギやポニーに会いに行ってきました。ヤギは、む中で草を食べていました。ポニーは、しっぽをふって、とてもかわいらしい顔をしていました。ポニーに、はじめてさわったかんしょくは、けっこうかたいんだなと思いました。

ヤギやポニーは、草を食べて、じょ草してくれていました。それに、草をふむことで、草をはえにくくしてくれていました。また、人が、草かりきを使わないので、ねんりょうや時間がかからなくてすみます。それから、かわいい動物にふれて、人の心もいやされます。動物によるエコじょ草は、動物、人、自ぜんかんきょうのためになっていて、一石二鳥ではなく、一石三鳥だと思います。

ぼくは、こんなにすばらしい動物によるエコじょ草がおこなわれている事を、もっとたくさんの人に知ってもらえるといいなと思います。新聞で、もっと人の目にとまるように、ポニーとヤギのしゃしんをふやして、大きな記事にしてのせたらいいと思います。学校のおたよりやインターネットにのせるのもいいと思います。みんながちゅう目すれば、ポニーやヤギをふやしてもっとじょ草がはかどると思います。

これからぼくは、見まもりボランティアにおうぼしたいです。動物たちのおせわをしたり、どんなことをしたら動物たちがよろこんでくれるかしりたいです。ぼくができることをして、人や動物のやくにたちたいです。

小学5・6年生の部　優秀賞

「スギ花粉症　どう治療？」を読んで

大島小5年　坂内　朝飛

毎年、春が来ると同時に、ぼくは花粉症の症状に苦しめられている。今年は花粉が飛ぶ量が多かったためか、早い時期から病院で処方してもらった薬を飲んでいても鼻づまりがひどく、副鼻腔炎になってしまった。頭痛や薬の副作用で眠くなり、勉強に集中できないことが特につらかった。春は、一番苦手な季節だ。

副鼻腔炎が治った頃、スギ花粉症の治療方法の新聞記事を目にした。舌下免疫療法という治療で、花粉の成分を含む薬を飲み続け、体を慣れさせて症状が出ないようにするそうだ。ぼくは、少しでも症状が軽くなるなら治療を受けてみたいと思い、病院に相談してみることにした。

病院では、初めに、アレルゲンを調べるために血液検査をして、一週間後に結果がでた。先生が、スギとはんのき属、桃などいくつか果物アレルギーがあることや舌下免疫療法の治療が受けられることを丁寧に説明してくれた。治療は、三年から五年、毎日治療薬を飲み続けなければならない。病院へも一ヵ月に一回通院する必要があるので、根気よく続けたいと思う。

ぼくのように、花粉症の国内患者は三千万人いるそうだ。日本では花粉症に苦しむ人が多いのに、なぜスギはたくさん植えられてきたのか調べてみた。高度成長期に材木がたくさん使われるようになり、成長が早いスギが多く植えられたことが原因で、花粉症が社会問題になっているそうだ。

現在、国は花粉を出さない無花粉スギへの植えかえを進めていて、三十年後に花粉の発生量を半分に減らすことを目標にしているそうだ。この対策で、少しでも症状が良くなる人が増えてほしいと思う。

小学3・4年生の部　優秀賞

選手を笑顔にするりょうり

福島大附小3年　久能　和佳

たきこみごはんにたまごやき。スープやサラダのようなものも見えます。おいしそうなりょうりのしゃしんに思わず「おいしそう」と声が出てしまいました。サッカーの女子ワールドカップにシェフとして同行している、西芳照さんの作ったりょうりです。見出しには、「西さん、献立に選手の声反映」とあります。わたしは、どうゆうことだろうと思って、記事を読んでみることにしました。

西さんは、今回はじめて女子のワールドカップに同行し、カレーライスが「重い」と言われればめんるいにへんこうするなど、選手の意見を献立に生かしているのだそうです。外国で試合をしているときに、自分の食べたいりょうりが食べれたら、とてもうれしいはずです。記事をよく読んでみると、鉄分が不足しないような食ざいを取りいれたり、体重が落ちないように気をつけたりと、選手のコンディションを整えるために意見を聞いていることもわかりました。なでしこジャパンの選手が、外国で元気にプレーすることができるのは、西さんのえいようたっぷりのりょうりをモリモリ食べているからだと思います。

この記事を読んで、試合には出ていないけれど、選手をささえている人がいるということがわかりました。わたしはぜひ、西さんに福島のももやりんごなどのくだものを使った献立を考えてほしいです。夏はあつくて冬はさむい福島で育ったくだものを使えば、力がでるりょうりができると思います。あつい国で試合をするときには、あまいし水分も取ることができてぴったりです。この記事を読んで、スポーツ選手のためのりょうり人という仕事にきょうみがわきました。西さんはどのようにしてサッカー選手のりょうり人になったのか、インタビューしてみたいです。

小学5・6年生の部　優秀賞

AIをどう使うのか

福島大附小6年　鳴原　拓利

作文の宿題はチャットGPTを使ってさっさと終わらせたらいいや。ぼくは、はずかしながら夏休みに入ってすぐそう思った。しかし、本来宿題は自分の力でやるもの、誰かにお願いするものではない。ましてや、AIにお願いしたら、よく分からない言葉ばかり出てきて、後々自分で書いていない事がバレたらどうしようという不安に押しつぶされそうになったぼくは、早々にチャットGPTを使う事をやめた。そもそも自分のためにはならないのだと、この記事を読んで考えを改めた。

この記事は夏の宿題と生成AIの利用との問題点について書いてあり、文部科学省が小中高向けの指針について詳しく書いてある。

ぼくは、以前からチャットGPTを利用している。しかし、それは学校の探究の時間で分からない言葉の意味や、調べたい内容の歴史を調べるために利用した。このように、自分の知識を広げるために簡単に利用でき、調べる時間の短縮につながる、とても便利な機能だ。ただ、この便利な機能を使って、作文や、日記、自由研究などを、あたかも自分が考えたように、そのままAIにお願いする事はやはり問題だ。なぜなら、あっという間に答えが出てしまい、自分で考え文章の構成なども工夫する時間さえもないからだ。

AI、ロボットなど、今後便利な機能はどんどん進化していくだろう。ぼくはこれからも、チャットGPTのような生成AIを上手く利用し、自分の知識をどんどん増やしていきたい。記事には、考える力の育成が最優先だと強調しているように、本来の宿題の意味を理解し、どう宿題をやりとげるのかを自分で計画し実行していく事自体が最も大切だと思う。この夏ぼくは、宿題リストと宿題プランを立て、計画的に宿題を終えた。

小学3・4年生の部　優秀賞

生成AIの時代に大切なことは

福島大附小4年　深田　蒼介

ぼくは、新聞でよく生成AIについての記事を見るようになり、興味を持ちました。

生成AIは大量のテキストデータから学習し、文章や画像などを生成する能力をもった人工知能です。簡単な指示をテキストなどに入力するだけで、人と会話をしているように自然な文章を自動で作ります。

チャットGPTを、実際に使ってみました。

ぼくは夏休みに、甲子園を夢中になって応援していました。優勝校のキャプテンが「辛い思いが全部報われた」と、胸を張って堂々と話している姿を見てとても感動しました。

そこで、高校野球や甲子園球場などについて、質問をしてみました。すると、歴史や伝統など質問してみなければ知らなかった情報を知ることはできましたが、高校野球を観戦したことのない人でも、答えることができるような内容が返ってきました。

AIは感情や経験がないので、感情の入っていない情報でしかありません。人間には考える力や豊かな感情があるので、人間の方が上なのではないかと感じました。

ある日の記事によると、チャットGPTを開発した「オープンAI」のサム・アルトマンにAI時代に子どもたちに必要な能力をたずねたところ、今まで以上に変化が早くなる未来をみすえ、「適応力と学ぶスピード」と、答えたそうです。

これらの技術はただの道具で、どう使うかは人間次第です。生成AIは、誤った情報もあるので、最終的に自分で判断しなければなりません。勉強をしっかりして、必要な知識を得ることや、多くの人と接して、いろいろな経験を積んで生成AIを活用したいです。

生成AIを使ってどんな未来がくるのか楽しみです。

小学5・6年生の部　優秀賞

買い物難民をなくすために

桜の聖母学院小6年　高橋　輝

東京電力福島第一原発事故によるひ難指示が解除された飯舘村には現在約千六百人が暮らしていますが、買い物できるお店が二ケ所しかないそうです。そこでコンビニエンスストアを運営している会社が週二回移動販売車両の運行を始めたという記事を読みました。福島県内では六自治体目の取り組みだそうだが、調べてみると全国でたくさんの移動販売車両が走っていることが分かりました。全国には買い物難民と呼ばれる人たちが約八百五十万人もいるそうです。その多くは高れい者ですが、運転免許証を返納して移動手段がなくなったり、身体機能のおとろえから商品を持ち帰るのが難しくなった人たちです。田舎だけではなく都会にも困っている人たちがたくさんいると知り、驚きました。そんな人たちにとって移動販売車両はとても必要だと思いました。

移動販売には良い所がたくさんあります。一つ目は、販売者とこう入者のきょりが近く、決まったルートを同じ人が販売することが多いので顔なじみになりやすいです。買い物をする時会話することにによって高れい者の状きょうを知ることができるので見守る役割もできます。二つ目は、移動販売車両が来ることによって住民同士が顔を合わせる機会が増えるので交流の場所になります。三つ目は、ネットショッピングとは違ってスマートフォンやパソコンを使わなくてもよいため高れい者でも利用しやすいことです。

日本はこれからますます高れい化社会になっていきます。近くに買い物をする場所がなくてわざわざ車で遠くのスーパーまで出かけて交通事故を起こしてしまう高れい者もいます。そうならないためにもっと移動販売車両が身近に増えればいいと思いました。